

神奈川県考古学会

考古かながわ 第36号

2006年度総会 開催報告

さる5月20日(土)、2006年度の総会を開催しました。今年度の総会は企画展「弥生の人々の眠る場所—方形周溝墓と環濠集落—」を開催中の横浜市歴史博物館との共催事業として開催しました。ここに総会の内容を報告します。

会則に則り、寺田会長を議長に選出した後、以下の議事が総会に諮られました。

議事1 2005年度事業報告

議事2 2005年度収支決算報告

議事3 2006年度事業計画(案)

議事4 2006年度収支予算(案)

議事1 2005年度事業報告

【総会】総会を2005年5月28日、かながわ県民センターにて開催。

【役員会・幹事会】2005年4月27日、5月11日、6

月29日、7月20日、9月21日、10月1日、2006年1月18日、2月15日、3月15日の合計9回開催。

【会誌】『考古論叢神奈河』第14集を2006年3月31日に刊行。

【連絡誌】『考古かながわ』33号、34号、35号をそれぞれ8月、12月、3月に刊行。

【講座】2006年2月5日、かながわ県民センターにて「神奈川の中世城館」と題して開催。参加者は約130名。

【見学会】県内における史跡、遺跡等の見学会として海老名市・相模国分寺跡(2005年8月28日)、茅ヶ崎市・史跡旧相模川橋脚(2005年10月15日)、平塚市・万田貝殻坂貝塚(2005年12月10日)、逗子市・史跡名越切通(2006年3月18日)にて見学会を開催。

【発表会】第29回神奈川県遺跡調査・研究発表会を10月23日に横浜市歴史博物館で開催。秦野市の平沢同明遺跡ほか8地点の調査報告が行われました。また発表会では弥生時代の遺跡と奈良・平安時代の調査報告について、昨年と同様、それぞれの時代を専門とする研究者からコメントを述べていただきました。

また記念講演として小宮恒雄さんから「横浜市大塚・歳勝土遺跡の調査研究・保存について」と題した御講演をいただきました。

また記念講演として小宮恒雄さんから「横浜市大塚・歳勝土遺跡の調査研究・保存について」と題した御講演をいただきました。



寺田兼方会長による開会挨拶と会場風景

議事 2 2005 年度収支決算報告

3・4 頁に掲載したとおり、2005 年度の収支決算が報告され、監事からの会計監査報告が拍手をもって承認されました。

議事 3 2006 年度事業計画案

【総会】総会は 2005 年 5 月 20 日、横浜市歴史博物館にて開催。

【役員会・幹事会】4 月 26 日以降、おおむね 2 ヶ月に 1 回の間隔で年 6 回程度の開催を予定。

【会誌】『考古論叢神奈河』第 15 集を 2007 年 3 月に刊行予定。

【連絡誌】『考古かながわ』36 号、37 号として年 2 回の刊行を予定。

【講座】2006 年 12 月 3 日、県民センターにて開催を予定。

【見学会】県内 3 回、県外 1 回の合計 4 回の見学会を開催予定。

【発表会】第 30 回 神奈川県遺跡調査・研究発表会を 11 月 19 日に横浜市開港記念会館ホールで開催予定。

議事 4 2006 年度収支予算案

5 頁のとおり、上記の事業計画案とともに 2006 年度の収支予算案が審議され、満場一致で拍手により承認されました。

2006 年度の事業計画及び収支予算案において特筆すべき内容は以下のとおりです。

2006 年度は神奈川県考古学会創立 15 周年となり、また会の主要な行事である遺跡調査・研究発表会が 30 回目を迎える年にあたることから、記念事業関係の予算を増額計上しました。具体的には発表会要旨の印刷費の増額と 2011 年度の創立 20 周年に向けた記念事業積立金を計上しました。

また連絡誌『考古かながわ』は、従来の年 3 回の刊行では情報の速報性という点に限界があることから、インターネット上に神奈川県考古学会のホームページを立ち上げるための開設準備経費を計上しました。これは本年 3 月に会員の皆様にお諮りしたアンケートの結果を事業に反映させた取り組みのひとつでもあります。

なお、ホームページ開設にかかわるアンケートの結果は下記のとおりでした。

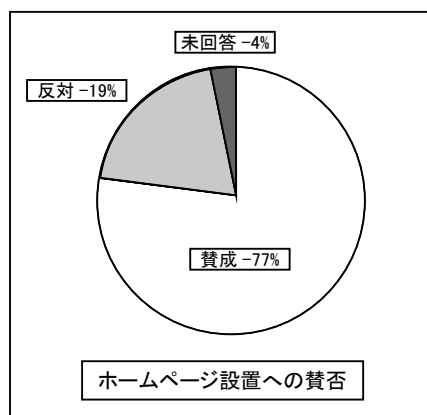
設問 1. インターネットに接続できるパソコンをお持ちですか？

設問 2. メールを送受信できるアドレスをお持ちですか？

設問 3. 考古学会からのお知らせをホームページで行うことに賛成／反対？

ハガキ 425 通中 128 通 (回答率 30%)

設問 1	設問 2	設問 3	回答数	回答率	
はい	はい	賛成	82	64%	77%
はい	いいえ	賛成	7	5%	
いいえ	はい	賛成	1	1%	
いいえ	いいえ	賛成	9	7%	
はい	はい	反対	12	9%	19%
はい	いいえ	反対	1	1%	
いいえ	いいえ	反対	12	9%	
はい	はい	未回答	1	1%	4%
はい	いいえ	未回答	1	1%	
いいえ	いいえ	未回答	2	2%	
合計			128	100%	



反対意見は、インターネットを利用できる環境を持っていない、あるいは持っていない方への配慮、持っていない日常的には利用しないなど、お知らせや情報提供の不平等性や見逃しを心配する声を中心でした。

一方多数を占めた賛成意見の中には、速報性や利便性に対する期待とともに、会員以外も含めた多くの方の閲覧が可能になれば、会のアピールにつながるという視点や、掲示板の設置を希望される声など、積極的な活用の提案も見られました。

ホームページは 2006 年度中には立ち上げ、利用のご案内を差し上げる予定で準備中です。立ち上げ後も会員みんなでもより良いものへ成長させていけるような、参加型のページを目指しております。その節には皆様の積極的なご参加・ご協力をお願いいたします。

2005 年度収支決算書

(収入の部)

節	予算額	決算額	比較増減額	説明
会費	1,230,000	1,011,000	▲ 219,000	旧年度会費 3,000 × 55 名 = 165,000 本年度会費 3,000 × 259 名 = 777,000 次年度会費 3,000 × 23 名 = 69,000
機関誌等売り上げ	700,000	589,770	▲ 110,230	< 発表会要旨 > 152,380 26 回要旨(会員) 500 × 1 部 = 500 26 回要旨(委託 0.7) 700 × 7 部 = 4,900 27 回要旨(会員) 300 × 1 部 = 300 27 回要旨(一般) 1,200 × 2 部 = 2,400 27 回要旨(委託 0.8) 960 × 1 部 = 960 27 回要旨(委託 0.7) 840 × 13 部 = 10,920 28 回要旨(会員) 300 × 4 部 = 1,200 28 回要旨(一般) 1,300 × 4 部 = 5,200 29 回要旨(会員) 200 × 102 部 = 20,400 29 回要旨(一般) 1,200 × 88 部 = 105,600 < 考古論叢 > 200,560 論叢 2(一般) 2,300 × 1 部 = 2,300 論叢 3(委託 0.8) 2,000 × 1 部 = 2,000 論叢 5(委託 0.8) 2,000 × 2 部 = 4,000 論叢 6(一般) 2,500 × 1 部 = 2,500 論叢 7(一般) 2,500 × 2 部 = 5,000 論叢 7(委託 0.8) 2,000 × 1 部 = 2,000 論叢 9(会員) 1,500 × 1 部 = 1,500 論叢 9(一般) 2,500 × 4 部 = 10,000 論叢 9(委託 0.8) 2,000 × 2 部 = 4,000 論叢 10(一般) 2,500 × 1 部 = 2,500 論叢 10(委託 0.8) 2,000 × 1 部 = 2,000 論叢 11(一般) 2,600 × 1 部 = 2,600 論叢 11(委託 0.8) 2,080 × 2 部 = 4,160 論叢 12(一般) 2,000 × 9 部 = 18,000 論叢 12(委託 0.7) 1,400 × 8 部 = 11,200 論叢 13(一般) 2,000 × 57 部 = 114,000 論叢 13(委託 0.8) 1,600 × 1 部 = 1,600 論叢 13(委託 0.7) 1,400 × 8 部 = 11,200 < 講座要旨 > 236,830 講座縄文起源Ⅱ(会員) 700 × 1 部 = 700 講座縄文起源Ⅱ(委託 0.8) 800 × 3 部 = 2,400 講座縄文ムラ(委託 0.8) 800 × 1 部 = 800 講座寺院(会員) 500 × 1 部 = 500 講座寺院(一般) 1,500 × 4 部 = 6,000 講座寺院(委託 0.8) 1,200 × 2 部 = 2,400 講座学史(会員) 500 × 5 部 = 2,500 講座学史(一般) 1,500 × 13 部 = 19,500 講座学史(委託 0.8) 1,200 × 2 部 = 2,400 講座近世(会員) 500 × 7 部 = 3,500 講座近世(一般) 1,500 × 11 部 = 16,500 講座近世(委託 0.8) 1,200 × 1 部 = 1,200 講座近世(委託 0.7) 1,050 × 13 部 = 13,650 講座横穴(会員) 400 × 25 部 = 10,000 講座横穴(一般) 1,200 × 19 部 = 22,800 講座横穴(委託 0.8) 960 × 1 部 = 960 講座横穴(委託 0.7) 840 × 28 部 = 23,520 講座城館跡(会員) 500 × 50 部 = 25,000 講座城館跡(一般) 1,500 × 55 部 = 82,500
雑収入	10,000	2,477	▲ 7,523	預金利子 / 雑収入等
繰越金	1,329,944	1,329,944	0	前年度繰越金
合計	3,269,944	2,933,191	▲ 336,753	

(支出の部)

節	予算額	決算額	比較増減額	説明
事務局費	180,000	100,084	▲ 79,916	連絡費 49,909 会議費 19,940 行事開催費 14,390 賃金 0 会費振込手数料 15,845
会誌費	800,000	571,150	▲ 228,850	連絡費 4,150 会議費 0 印刷費 567,000 謝礼 0
連絡誌費	250,000	256,390	6,390	連絡費 147,925 印刷費 108,465 謝礼 0
発表会費	350,000	227,900	▲ 122,100	連絡費 18,795 会議費 0 行事開催費 0 印刷費 189,000 謝礼 20,105
講座費	350,000	345,941	▲ 4,059	連絡費 6,595 会議費 2,800 行事開催費 54,466 印刷費 262,080 謝礼 20,000
見学会費	100,000	99,980	▲ 20	連絡費 82,600 会議費 5,200 行事開催費 12,180 謝礼 0
予備費	1,329,944	0	▲ 1,329,944	0
合計	3,359,944	1,601,445	▲ 1,758,499	

会計監査報告

2005年度の収支決算について、金銭出納簿、証拠書類等を精査し、預金残高と照合した結果、誤りなく適正に処理されていることを確認しました。

平成18年 5月13日

監事 伊藤 郭
松尾 宣方

※本誌での押印略

収入 (2,933,191 円) - 支出 (1,601,445 円) = 次年度繰越金 (1,331,746 円)

懇談会「神奈川の考古学を考える」を開催

総会の議事終了後、これまで行ってきたかながわ考古トピックスや講演会にかえて、本年度は参加者全員による懇談会を開催しました。現在の会の運営が果たして会員のニーズに応えたものであるのだろうか?という役員

会での問題意識や、昨今、神奈川県内の考古学をめぐる状況として問題となっている、財団法人かながわ考古学財団の廃止問題(6頁および同封のチラシ参照)までを含めて、広く多くの会員の皆さんとの意見交換を目的として初の試みである懇談会を行いました。

懇談会の出席者は約30名と決して多くはありませんでしたが、参加者全員が発言し、各人が日ごろから考えていること、思っていることなどを語り合いました。たくさんの方の様々な意見があることを改めて認識する良い機会となりました。

当日会場から寄せられた主な意見を、3月に実施したアンケート時に寄せられたものと合わせてとりまとめると、およそ次のとおりでした。

まず、「見学会や講座の充実」を望む声が多く聞かれました。見学会については、「県内の標識遺跡を歩く」、「過去に見学した遺跡を再訪問して現状を把握する」な



司会にあたる岡本孝之副会長と総務 小林さん

2006 年度収支予算書

(収入の部)

節	予算額	前年度予算額	比較増減額	説明
会費	1,164,000	1,230,000	▲ 66,000	会費 3,000 円 × 388 名 = 1,164,000 円
機関紙等売上げ	600,000	700,000	▲ 100,000	発表会要旨・考古論叢・講座要旨等売上げ
雑収入	5,000	10,000	▲ 5,000	預金利子・雑収入等
繰越金	1,331,746	1,329,944	1,802	前年度繰越金
合計	3,100,746	3,269,944	▲ 169,198	

(支出の部)

節	予算額	前年度予算額	比較増減額	説明
事務局費	150,000	180,000	▲ 30,000	連絡費 70,000 会議費 30,000 行事開催費 20,000 会費振込手数料 30,000 ※ 2006 年 4 月より手数料 1 件 100 円に値上り
会誌費	606,000	800,000	▲ 194,000	連絡費 10,000 会議費 10,000 印刷費 581,000 ※ 15 周年記念号 ・ 発送費を含む 謝礼 5,000
連絡誌費	190,000	250,000	▲ 60,000	連絡費 90,000 ※ 年 2 回発刊予定 会議費 20,000 印刷費 80,000 ※ 年 2 回発刊予定
発表会費	560,000	350,000	210,000	連絡費 25,000 会議費 5,000 行事開催費 60,000 印刷費 450,000 ※ 第 30 回記念事業費 25 万を含む 謝礼 20,000
講座費	358,000	350,000	8,000	連絡費 8,000 会議費 5,000 行事開催費 60,000 印刷費 265,000 謝礼 20,000
見学会費	95,000	100,000	▲ 5,000	連絡費 85,000 ※ 連絡ハガキ代等 会議費 5,000 行事開催費 5,000 謝礼 0
15 周年記念行事費	60,000	0	60,000	会議費 10,000 HP 開設準備費 50,000
記念行事準備費	750,000	0	750,000	※ 20 周年記念事業積立金
予備費	331,746	1,239,944	▲ 908,198	
合計	3,100,746	3,269,944	▲ 169,198	

ど具体的な企画の提案がありました。講座については、「初心者向けを希望」という声に対し、「入門講座ばかりでは面白くない」という正反対の意見も挙がりました。

『考古論叢神奈河』については、「有料でも良いから一年間の県内考古学動向がわかる年報の掲載を」という提案、「読み応えのある論考を」、「地域研究論文集としての使命を果たすべき」などの意見がありました。

さらに「各事業とももっと研究の面に重点を置くべき」との強い主張もなされました。

専門性と一般性、考古学に期待される二つの面。この両立と双方のニーズを満たす活動にはどのような形があるのか、なかなか難しい課題と受け止めています。

いずれにしても、今年度も会員の皆様のご期待に応えられるよう、役員一同、努力して会務の遂行に邁進する所存ですので、皆様からのご支援、よろしく願いいたします。

(総務担当役員 小林康幸・

連絡誌担当役員 秋田かな子)

2006年5月20日

神奈川県考古学会 会長 寺田兼方 様

財団法人かながわ考古学財団廃止方針に係る要望書

神奈川の文化財の未来を考える会

時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃より神奈川県における考古学の発展と埋蔵文化財保護のための御尽力に敬意を表します。

さて、埋蔵文化財のみならず、文化財の調査・研究と保護・活用は行政機関の責務であり、地方自治体はこれまで大きな役割を果たしてきました。さらに、平成12(2000)年の地方分権一括法(文化財保護法改正)施行後は、国から都道府県へ文化財保護に関わる権限が大幅に委譲されたことに伴い、地方自治体、特に都道府県の果たす役割は非常に重要になっています。

しかしながら、去る平成17(2005)年11月22日、松沢成文神奈川県知事は「今後のあり方を踏まえた県主導第三セクターの見直しについて」を発表し、(財)かながわ考古学財団を「自立度が高く、必要度が低い法人」と位置づけ、平成22(2010)年度末に「第三セクター以外の法人を目指す」としました。この方針は神奈川県が地方自治体として発掘調査組織を持つことを放棄するものであり、神奈川県内の埋蔵文化財の保護や調査成果の県民への還元という面で大きな後退に繋がります。

改めて言うまでもなく、埋蔵文化財は国民共有の財産であり、その地域の歴史を物語る貴重な文化遺産です。これらを次世代へ伝えていく文化財の保護は、調査・研究、普及・啓発、保管・管理を一体として、各自治体が責任を持って積極的に取り組むべきことです。文化庁も、埋蔵文化財の調査はその質を確保するため自治体みずから行うことを基本とし、やむを得ない場合、自治体設立法人の体制を充実するよう各都道府県に通知しています。しかし、神奈川県はこれを無視し、全く逆行したことを行おうとしています。ここまで埋蔵文化財保護行政における公的責任を放棄しようとする都道府県自治体は他にありません。

今回の方針は、神奈川県にとどまることのない行政責任の放棄であり、全国の埋蔵文化財保護行政に極めて大きな悪影響を及ぼすものです。これまで各関係機関・職員が長年築き上げてきた埋蔵文化財保護行政の基本理念を根底から破壊する、このような神奈川県の方針は到底受け入れることはできません。当会では、文化財の公益性を守り、自治体はその責務を果たすように活動していく所存であります。

ついては、貴学会から神奈川県知事へ本方針に対する抗議をお願いしたく、本要望書を送付するものです。何卒ご協力をお願いいたします。

神奈川の文化財の未来を考える会

〒220-0051 横浜市西区中央-11-5-402

「神奈川の文化財の未来を考える会事務局」

(事務局代表 鈴木庸一郎)

m(_)m お願い m(_)m

「財団法人 かながわ考古学財団」廃止問題について

6 頁に掲載した要望書は、財団法人 かながわ考古学財団に対して打ち出された神奈川県の方針に対して、県内文化財の保護・活用の未来に危惧を覚えた有志により結成された「神奈川の文化財の未来を考える会（兼 神奈川県考古学会会員）」から、5 月 20 日の総会において当会に提出された協力・支援要請の文書です。

現在、この問題に対して、当会がどのように対応することが広く文化財の未来にとって望ましいのか、役員会においてを検討を重ねています。

会員諸氏におかれましても、同封の A4 チラシ（神奈川の文化財の未来を考える会 作成）をご一読のうえ是非ご意見をお寄せくださいますようお願いいたします。

なおこの問題にかかわり、本年度 3 月一杯まで利用可能なメールアドレスを仮設しました。忌憚のないご意見を積極的に下記アドレスに投稿くださいますようお願いいたします（匿名可）。

メールアドレス 神奈川県考古学会 kenkouko@aol.com

なお、投稿されたご意見には必ずしもお返事を差し上げませんが、役員会の場で検討材料とし、確実に当会の方針に活かして参ります。

この件の係 総務担当役員 宮坂淳一

『考古論叢 神奈河』原稿の募集

『考古論叢神奈河』は皆さまで育てる会誌です。会では第 16 集以降の原稿を募集しております。考古学会に衝撃を与えるような論文はもちろん、研究ノートや資料紹介も歓迎します。ふるってご投稿ください。

執筆を希望される方は、2007 年 8 月末日までに「執筆申込書」を会誌担当役員宛てにご提出ください。折り返し「執筆要項」をお送りしますので、要項にしたがってご執筆ください。原稿の締め切りは同年 12 月末日、刊行は 2008 年 3 月となります。

なお「執筆申込書」は、第 14 集の誌面中に掲載されています。ご不明の点は会誌担当役員あるいは下記の問い合わせ先にご連絡ください。

問い合わせ：会誌担当 滝沢晶子（株）博通
0467-25-6023

『考古かながわ』原稿の募集

連絡誌も次号の原稿を募集中です。会主催の行事参加記や感想文、会へのご意見・ご要望に限らず、県内で開催された展示会や、聴講された講座の感想などもお寄せください。

次号は 3 月末刊行を予定しております。投稿をご希望の方は、12 月中旬までにお気軽に下記へご相談ください。

また、ホームページ作成・運営に詳しい方のご協力を募っています。我こそはという方がおられましたら、是非、ご一報くださいませ。

問い合わせ：連絡誌担当 秋田かな子
東海大学校地内遺跡調査団内
0463-50-2419（直通）

【展示会】

神奈川県立歴史博物館

特別展示「富士山大噴火—宝永の「砂降り」と神奈川—」

会期：2006年10月14日（土）～11月19日（日）

問い合わせ：横浜市中区南仲通 5-60

電話：045-201-0926

神奈川県立金沢文庫

特別展「霊験仏—鎌倉人（かまくらびと）の信仰世界—」

会期：2006年10月5日（木）～12月3日（日）

問い合わせ：横浜市金沢区金沢町 142

電話：045-701-9069

相模原市立博物館

新「相模原市」誕生記念秋季特別展

「相模川・桂川流域の縄文時代

—川で結ばれた先人の暮らし—」

会期：2006年10月7日（土）～12月3日（日）

問い合わせ：相模原市高根 3-1-15

電話：042-750-8030

関連記念講演会

奈良泰史氏「相模川上流域の縄文時代遺跡」

日時：2006年10月22日（日）14:00

会場：相模原市立博物館大会議室

馬の博物館（根岸競馬記念公苑）

秋季特別展「厩（うまや）」（仮称）

会期：2006年10月14日（土）～11月26日（日）

室町時代から近代までの日本の厩に注目し、厩図屏風や絵巻物などに描かれた資料を展示

問い合わせ：横浜市中区根岸台 1-3

電話：045-662-7581

区民交流サロン・せやまるハウス

地域展「地面の下にはナニかある—横浜市西部の遺跡展—」

横浜市西部域（旭・瀬谷・泉・保土ヶ谷区）の遺跡と遺物

会期：2006年9月12日（火）～9月24日（日）

問い合わせ：横浜市瀬谷区二ツ橋町 469

電話：045-367-2588

大磯町郷土資料館

文化財特別公開（仮称）

会期：2006年9月10日（日）～2007年3月31日（土）

問い合わせ：神奈川県中郡大磯町西小磯 446

電話：0463-61-4700

【講座】

「横浜の考古学

—港北ニュータウン遺跡群のかたるもの—」

会場：横浜市歴史博物館講堂

問い合わせ：財団法人横浜市ふるさと歴史財団

埋蔵文化財センター

日時：2006年11月1日（水）14:00

講師：坂本 彰氏

「縄文土器の成り立ちと貝塚ムラ—旧石器～縄文時代前期—」

日時：2006年11月8日（水）14:00

講師：石井 寛氏

「遺跡群が語る縄文社会—縄文時代中期～晩期—」

日時：2006年11月15日（水）14:00

講師：武井則道氏

「横浜農業のはじまりと地域社会の形成—弥生時代—」

日時：2006年11月29日（水）14:00

講師：坂上克弘氏

「城・屋敷・農村の暮らし—中世～近世—」

【！神奈川県考古学会の行事！】

第30回 神奈川県遺跡調査研究発表会

日時：2006年11月19日（日）9:30～17:30

会場：横浜市開港記念館

特別記念講演 寺田兼方 県考古学会会長

第30回記念企画「過去30年の到達点と課題」

通常の発表に加え、過去30年間の県内考古学調査・研究を振り返り、今後を展望する発表があります。

考古学講座「古代遺跡再発見」

日時：12月3日（日）9:45～17:00

会場：神奈川県民センター 2階ホール

※各行事の詳細については同封のチラシをご覧ください！

考古がながわ 第36号

発行 神奈川県考古学会

発行日 2006年10月14日

編集 秋田かな子・中川真人・渡辺 務（連絡誌担当）

印刷 （有）湘南グッド

発行者 神奈川県考古学会 会長 寺田兼方

〒251-0043

藤沢市辻堂元町4-17-4 やよい荘 102

郵便振替 00240-9-71208